

子宮内膜症について

おがさまきレディースクリニック
院長 小笠 麻紀

誰でも一度は子宮内膜症という病名を耳にしたことがあるのではないのでしょうか。ただ、どういう病気なのかご存知ない方のために、今回は、子宮内膜症（以下内膜症）あれこれをお伝えしたいと思います。

日々の診療で、「月経痛がひどい」と訴えて受診される患者さんは後を絶ちません。生活に支障が出るほど強い月経痛の原因の多くは内膜症だと言われています。

子宮内膜とは、文字通り子宮の内側にある膜のことで、卵巣ホルモンの変動で増殖して厚くなり、月経時に剥がれ落ちて薄くなるというのを繰り返しています。内膜症とは、この内膜やそれに似た組織が、何らかの原因で子宮の内側以外に発生し発育する病気です。

内膜症が最も発症しやすい場所は、卵巣ですが、子宮と直腸、膀胱の間のくぼみや、子宮を支える靭帯などにも多く発症します。稀少部位子宮内膜症といって、肺など子宮から遠く離れた臓器に発症することもまれにあります。子宮の内側以外であっても内膜組織は周期的に増殖と剥離を繰り返すので、血液がたまっていったり、周囲と癒着したりして、不妊の原因にもなります。ちなみに、肺に内膜症ができると、月経の度に血を吐くという症状を引き起こします。

以上のように、内膜症は、子宮の内側以外で月経がおきるため、月経時の痛みがひどくなるのが一番の特徴です。月経の度に進行していくので、月経痛が年々ひどくなっている人は、内膜症の可能性が高くなります。また、10代のころに月経痛で受診して、検査で異常が見つからなかった人の中で、将来、内膜症と診断される確率は、そうでない人の2.6倍にもなるという報告も出ています。内膜症が進行してしまうと、不妊症にもなるため、最近では、10代のころから内膜症の予防にピルを使うことが推奨されています。月経痛がひどい人は、是非、一度婦人科を受診して相談してみてください。



看護 roo! (ライフスタイル) より